

201317099A

別紙 1

研究報告書表紙

厚生労働科学研究費補助金

障害者対策総合研究事業

エピジェネティクス解析に基づいた網膜硝子体疾患に対する病態解明と  
発症予防および治療法の開発

平成25年度 総括研究報告書

研究代表者 三村 達哉

平成26(2014)年 4月

研究報告書目次

目 次

|   |       |   |
|---|-------|---|
| I. 総括研究報告   |       |   |
| エピジェネティクス解析に基づいた網膜硝子体疾患に対する病態解明と<br>発症予防および治療法の開発 | ----- | 1 |
| 三村 達哉   |       |   |
| II. 研究成果の刊行に関する一覧表                                | ----- | 4 |
| III. 研究成果の刊行物・別刷                                  | ----- | 6 |

## I. 総括研究報告

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）  
（総括）研究報告書

エピジェネティクス解析に基づいた網膜硝子体疾患に対する病態解明と  
発症予防および治療法の開発

研究代表者 三村達哉 東京女子医科大学東医療センター眼科学教室 講師

## 研究要旨

エピジェネティクスとは、DNA の塩基配列の変化なしに、遺伝的しかも可逆的に遺伝子機能の発現が変化する現象で、DNA メチル化やヒストン修飾が関与する。癌をはじめあらゆる疾患におけるエピジェネティクス異常が、病態に関与し、診断や治療の標的となることが明らかになりつつあるが、感覚器疾患との関わりについてはまったく知られていない。本研究では、眼感覚器疾患の中で視機能に直接に影響を与える網膜硝子体疾患とエピジェネティクス異常の関係に焦点をあてて研究を行う。眼内での DNA、ヒストン、クロマチンのメチル化異常を調べることにより、原因不明であった眼疾患の病態を明らかにするとともに、特定の部位のメチレシオンを抑制することにより、疾患の予防および、治療をすることを最終目標とする。

## A. 研究目的：

本研究では、眼内組織の老化のメカニズムを明らかにするために、近年 DNA の塩基配列に変化なしに遺伝的しかも可逆的に遺伝子機能に変化を及ぼすことが明らかになったエピジェネティクスの観点から、網膜硝子体疾患とエピジェネティクス異常の関係を調べることを目的とする。

## B. 研究方法：

## 研究計画および方法

本研究は眼感覚器の中心となる網膜視機能障害に焦点をあて、網膜硝子体疾患における各種サイトカインとエピジェネティクスとの関係を調べることを目的としている。研究の対象は糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、加齢性黄斑変性症に伴う黄斑浮腫などに対し手術を施行した患者である。硝子体手術を必要とする患者に同意を得たのち、前房水、硝子体液、血液、内境界膜を採取する。硝子体手術を必要とした黄斑円孔および黄斑上膜の症例をコントロールとする。

## I 研究デザイン

①症例対照研究、②前向きコホート研究、**対象**：黄斑浮腫患者、非黄斑浮腫患者（黄斑上膜、黄斑円孔）、**症例数**：criteria を満たす年間手術数は約 160 例で、そのうち年間 100 例を目標に研究にエントリーする。

（平成 23 年-24 年度）研究開始 2 年間は患者のエントリーならびに術前術後の網膜視機能の評価、サンプルの採取を行う。視力検査、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、蛍光眼底造影、光干渉断層計、網膜感度検査および網膜電図などを行い、各種網脈絡膜疾患に伴う網膜視機能評価を行う。

## （平成 24-25 年度）

サンプルの採取およびサイトカイン濃度の測定

①症例対照研究黄斑浮腫患者群と非黄斑浮腫患者群との間における前房水、硝子体・血液中サイトカイン濃度、黄斑部血流速度の比較、組織学的研究、眼内液サイトカイン濃度および黄斑部血流速度との相関解析。測定候補サイトカインは VEGF, VEGF receptor-2 (VEGFR-2), Erythropoietin (EPO), ICAM-1, IL-6, PEDF, Vascular endothelial adhesion molecule-1 (VCAM-1), Monocyte chmoattractant protein-1 (MCP-1), Stromal-derived factor-1 (SDF-1)。

②眼内サンプル中の細胞の DNA のエピジェネティクス変化を調べ、メチル化を調べる。

## （倫理面への配慮）

すべての研究は虎の門病院、東京大学、東京女子医科大学の倫理委員会の承認を得て行う。治療開発を前提とした研究であり、動物実験、臨床試験を行う予定のため、倫理委員会の指針、動物実験の対する指針、および研究に関与するあらゆる倫理指針を遵守する。動物の取り扱い、苦痛を伴うものは必ず全身麻酔下に行い、両眼が失われる可能性のある場合は片眼のみに処置を行う。全ての実験において動物は the Association for Research in Vision and Ophthalmology の規約および、実験動物の飼養及び保管等に関する基準（総理府）に従って扱う。人を扱う研究では、ヘルシンキ宣言（世界医師会総会 World Medical Assembly）の勧告に従って行う。また遺伝子解析はヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針（文部科学省、厚生労働省、経済産業省）を遵守する。具体的には以下のように行う。患者を対象とする臨床試験においては十分な説明をした後、文書による同意を得てから行う（インフォームド・コンセント）。

### C. 研究結果:

本年度は次の結果を得た。①硝子体サンプル中の全遺伝子のメチル化率は網膜症+>>網膜症-であった。②全遺伝子のうち、メチル化率の高い遺伝子上位5種は血管新生/血管内皮増殖の転写因子と低酸素誘導性の転写因子であった。③眼内(前房水)中の抗老化遺伝子であるサーチュイン濃度は加齢黄斑変性のある患者では黄斑変性のない患者よりも低下していた。④加齢黄斑変性患者の尿中乳酸塩濃度は基準値に対し平均872.9%増加し、尿中ピルビン酸塩濃度は基準値に対し平均223.9%増加していた。ミトコンドリア機能を反映する乳酸塩/ピルビン酸塩比は基準値に対し418.3%増加していた。

### D. 考察:

(1)メチル化解析により眼内遺伝子のメチル化が網膜症の病態に関与していると考えられる。  
(2)血管維持に必要な転写因子のメチル化が、網膜血管障害発症に関与している可能性がある。  
(3)加齢黄斑変性患者で、解糖系とTCAサイクルの中間体であるピルビン酸の増加と、ピルビン酸の還元で産生する乳酸塩が尿中に増加しており、乳酸塩/ピルビン酸塩比が高いことは解糖系におけるATP産生の低下が加齢に影響していると考えられる。

### E. 結論

眼内の血管維持に必要な転写遺伝子のメチル化が網膜血管障害ならびに眼加齢に関与していると考えられた。

### F. 健康危険情報

本研究の結果により、健康に及ぼす危険事項は確認できなかった。

### G. 研究発表

1. 論文発表 2013年-2014年3月英文発表25編。

代表論文5編を下記に記載する。

1. Mimura T, Noma H, Funatsu H. Epigenetic regulation of retinal stem cells. International Journal of Stem Cell Research and Transplantation (IJST) 2013;103:1-2.
2. Mimura T, Noma H, Funatsu H, Yamagami S. Next-generation sequencers: what can we learn? J Bioanal Biomed 2013;5(2):1-3
3. Mimura T, Kaji Y, Noma H, Funatsu H, Okamoto S. The role of SIRT1 in ocular aging. Exp Eye Res. 2013 Jul 26;116C:17-26.
4. Noma H, Mimura T. Aqueous soluble vascular endothelial growth factor receptor-2 in macular edema with branch retinal vein occlusion. Curr Eye Res. 2013 Aug 23.
5. Mimura T, Noma H, Funatsu H, Kondo A, Matsubara M. Retinal neuroprotective effect of Sirtuins. JSM Ophthalmol 2014;2(1):1016.

### 2. 学会発表・招待講演

1. 三村達哉、亀井裕子、五嶋摩理、近藤亜紀、松原正男、涙液中特異的IgE抗体価とアレルギー性結膜炎他覚的所見の関係、第117回日本眼科学会総会、東京2013年4月4日
2. 三村達哉、アレルギー性結膜炎と小麦アレルギーの関係、第79回東京女子医大 東医療センター眼科医局講演会 東京2013年5月25日
3. 齋藤勇祐、亀井裕子、三村達哉、五嶋摩理、松原正男、眼部帯状疱疹における角膜炎発症の関連因子、フォーサム2013第50回 日本眼感染症学会、大阪2013年7月12日
4. 五嶋摩理、近藤亜紀、亀井裕子、三村達哉、松原正男 涙点プラグ留置後2年で太鼓締めをきたした1例の臨床経過と組織学的検討、フォーサム2013 第2回涙道涙液学会 大阪2013年7月12日
5. 三村達哉、PCR法の臨床応用、角膜疾患診療ナビ 学術講演会、東京2013年10月2日
6. 三村達哉、白内障を治そう!荒川区医師会、東京2013年10月5日
7. 三村達哉、角膜内皮の老化と再生、第80回東京女子医大 東医療センター眼科医局講演会、東京2013年10月12日
8. 三村達哉、亀井裕子、五嶋摩理、松原正男、市瀬孝道、アレルギー性結膜炎患者数と大気中PM2.5の関係、第67回日本臨床眼科学会 横浜2013年10月31日
9. 深山杏里、三村達哉、五嶋摩理、亀井裕子、近藤亜紀、松原正男アレルギー性結膜炎患者におけるネコ特異的IgG 第67回日本臨床眼科学会 横浜2013年10月31日
10. 横佐古加奈子、三村達哉、五嶋摩理、亀井裕子、松原正男、加齢黄斑変性における解糖系代謝、第67回日本臨床眼科学会 横浜2013年10月31日
11. 五嶋摩理、太刀川貴子、大熊博子、亀井裕子、三村達哉、近藤亜紀、松原正男、手術に至った視神経髄膜腫の小児例、第67回日本臨床眼科学会 横浜2013年10月31日
12. 上順子、三村達哉、中静隆之、岸本修一、佐藤新兵、賣一博、福原紀章、山田正三、森樹郎、下垂体腫瘍患者における網膜神経線維層の解析、第67回日本臨床眼科学会、横浜2013年10月31日
13. 近藤亜紀、三村達哉、松原正男、翼状片術後50年で角膜穿孔に至り、新鮮角膜輪部強膜移植にて治療した一例 角膜カンファランス2014 第38回日本角膜学会総会 第30回日本角膜移植学会、沖縄2014年1月30日
14. 三村達哉、アレルギー性結膜炎の診断法 ARABO Seminar、東京2014年3月7日

### H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他・賞罰  
平成25年9月 三村達哉 第28回基礎医学医療研究助成

## 研究成果の刊行に関する一覧表

## 書籍

| 著者氏名                           | 論文タイトル名   | 書籍全体の編集者名        | 書籍名  | 出版社名   | 出版地     | 出版年  | ページ    |
|--------------------------------|---|------------------|--|--------|---------|------|--------|
| Mimura T, Yokoo S, Yamagami S. | Corneal endothelial tissue bioengineering using cultured human corneal endothelial precursor cells. | Jose A. Andrade, | Regenerative Medicine and Tissue Engineering | InTech | Croatia | 2013 | 429-45 |

## 雑誌


| 発表者氏名   | 論文タイトル名  | 発表誌名  | 巻号     | ページ     | 出版年  |
|---|--|---|--------|---------|------|
| <a href="#">Mimura T.</a> , Usui T, Yamagami S, Miyai T, Amano S.     | Relationship between total tear IgE and specific serum IgE in autumnal allergic conjunctivitis.  | Cornea  | 32     | 14-9    | 2013 |
| <a href="#">Mimura T.</a>   | Bilateral eyelid erythema associated with false eyelash glue.  | Cutaneous and Ocular Toxicology                   | 32(1)  | 89-90   | 2013 |
| Noma H, <a href="#">Mimura T.</a> , Eguchi S.                         | Association of inflammatory factors with macular edema in branch retinal vein occlusion.   | JAMA Ophthalmol.                                  | 131(2) | 160-5   | 2013 |
| Noma H, <a href="#">Mimura T.</a> , Shimada K.                        | Retinal function and morphology in central retinal vein occlusion with macular oedema.   | Curr Eye Res.                                     | 38(1)  | 143-9   | 2013 |
| Noma H, Funatsu H, <a href="#">Mimura T.</a>                          | Changes of inflammatory factors after intravitreal triamcinolone acetonide for macular edema with central retinal vein occlusion.                      | J Ocul Pharmacol Ther                             | 29(3)  | 363-5   | 2013 |
| Noma H, Shimada K, <a href="#">Mimura T.</a>                          | Visual function after pars plana vitrectomy in macular edema with branch retinal vein occlusion.   | Int Ophthalmol.                                   | 33(3)  | 227-36  | 2013 |
| <a href="#">Mimura T.</a> , Yamagami S, Amano S.                      | Corneal Endothelial Regeneration and Tissue Engineering.   | Prog Retin Eye Res.                               | 35     | 1-17    | 2013 |
| Noma H, <a href="#">Mimura T.</a> , Shimada K.                        | Changes of macular sensitivity and morphology after pars plana vitrectomy for macular edema with central retinal vein occlusion: a case series.        | BMC Ophthalmol.                                   | 13(1)  | 2       | 2013 |
| <a href="#">Mimura T.</a> , Noma H, Funatsu H.                        | Epigenetic regulation of retinal stem cells. International   | Journal of Stem Cell Research and Transplantation | 103    | 1-2     | 2013 |
| <a href="#">Mimura T.</a> , Yamagami S, Kamei Y, Goto M, Matsubara M. | Influence of axial length on conjunctivochalasis.  | Cornea  | 32(8)  | 1126-30 | 2013 |
| Noma H, Funatsu H, Shimada K, <a href="#">Mimura T.</a>               | Influence of pars plana vitrectomy on macular sensitivity and morphology in patients with branch retinal vein occlusion and serous retinal detachment. | Ophthalmic Surg Lasers Imaging Retina.            | 44(2)  | 160-7   | 2013 |
| Noma H, Shimada K, <a href="#">Mimura T.</a>                          | Influence of retinal ischemia on macular function after pars plana vitrectomy for macular edema with branch retinal vein occlusion.                    | Int Ophthalmol.                                   | 33(6)  | 677-86  | 2013 |
| Noma H, Shimizu H, <a href="#">Mimura T.</a>                          | Unilateral macular edema with central retinal vein occlusion in systemic lupus erythematosus: a case report.   | Clin Ophthalmol.                                  | 7      | 865-867 | 2013 |
| <a href="#">Mimura T.</a> , Yamagami S, Kamei Y, Goto M, Matsubara M. | Specific IgE in tear fluid and features of allergic conjunctivitis.  | Clin Ophthalmol                                   | 7      | 865-867 | 2013 |
| <a href="#">Mimura T.</a> , Noma H, Funatsu H, Yamagami S.            | Next-generation sequencers: what can we learn?   | J Bioanal Biomed                                  | 5(2)   | 1-3     | 2013 |
| <a href="#">Mimura T.</a> , Kaji Y, Noma H, Funatsu H, Okamoto S.     | The role of SIRT1 in ocular aging.   | Exp Eye Res.                                      | 116C   | 17-26   | 2013 |
| Noma H, <a href="#">Mimura T.</a>                                     | Aqueous soluble vascular endothelial growth factor receptor-2 in macular edema with branch retinal vein occlusion.                                     | Curr Eye Res.                                     | 38(12) | 1288-90 | 2013 |
| Noma H, <a href="#">Mimura T.</a> , Tatsugawa M, Shimada K.           | Aqueous flare and inflammatory factors in macular edema with central retinal vein occlusion: a case series.  | BMC Ophthalmol.                                   | 11(1)  | 78      | 2013 |

研究成果の刊行に関する一覧表 (続き)

|  |  |  |       |          |      |
|--|--|--|-------|----------|------|
| Mimura T, Yamagami S, Noma H, Kamei Y, Goto M, Kondo A,      | Matsubara M. Specific IgE for wheat in tear fluid of patients with allergic conjunctivitis.                                | Cutan Ocul Toxicol.  |       | In press | 2014 |
| Mimura T, Noma H, Funatsu H, Kondo A, Matsubara M.           | Retinal neuroprotective effect of Sirtuins.  | JSM Ophthalmol   | 2(1)  | 1016     | 2014 |
| Mimura T, Yamagami S, Kamei Y, Goto M, Kondo A, Matsubara M. | Measurement of Specific Tear IgE With ImmunoCAP Rapid.   | Journal of Investigational Allergology and Clinical Immunology |       | In press | 2014 |
| Noma H, Mimura T, Masahara H, Shimada K.                     | Pentraxin 3 and other inflammatory factors in central retinal vein occlusion and macular edema.                            | Retina   | 34(2) | 352-9    | 2014 |
| Mimura T, Noma H, Yamagami S.                                | Conjunctival sensitization to hydrolyzed wheat protein in facial soap.   | J Investig Allergol Clin Immunol.                              |       | In press | 2014 |
| Noma H, Funatsu H, Mimura T, Shimada K.                      | Role of inflammation in macular edema with branch retinal vein occlusion.  | Curr Eye Res   |       | In press | 2014 |
| Noma H, Mimura T, Kuse M, Shimada K.                         | Association of electroretinogram and morphological findings in central retinal vein occlusion with macular edema.          | Clin Ophthalmol  | 8     | 191-7    | 2014 |
| Noma H, Mimura T, Yasuda K, Shimura M.                       | Vascular endothelial growth factor and its soluble receptors-1 and -2 in iris neovascularization and neovascular glaucoma. | Ophthalmologica  |       | In press | 2014 |

### III. 研究成果の刊行物・別刷

代表的なレビュー論文1報のみ添付する

 **JSM Ophthalmology**

**Review Article**

## Retinal Neuroprotective Effect of Sirtuins

Tatsuya Mimura<sup>1\*</sup>, Hidetaka Noma<sup>2</sup>, Hideharu Funatsu<sup>3</sup>, Aki Kondo<sup>1</sup> and Masao Matsubara<sup>1</sup>

<sup>1</sup>*Department of Ophthalmology, Tokyo Women's Medical University Medical Center, Japan*  
<sup>2</sup>*Department of Ophthalmology, Hachioji Medical Center, Tokyo Medical University, Japan*  
<sup>3</sup>*Department of Ophthalmology, Yachiyo Medical Center, Tokyo Women's Medical University, Japan*

**\*Corresponding author**  
Tatsuya Mimura, Department of Ophthalmology, Tokyo Women's Medical University Medical Center East, 2-1-10 Nishiogu, Arakawa-ku, Tokyo, 116-8567 Japan. Tel: 81 33810-1111 (Ex7765); Fax: 81 33894-0282; E-mail: mimurat-ky@umin.ac.jp

**Submitted:** 23 February 2014  
**Accepted:** 03 March 2014  
**Published:** 07 March 2014

**Copyright**  
© 2014 Mimura et al.

**OPEN ACCESS**

**Keywords**

- Review
- SIRT1
- Retina
- Resveratrol

**Abstract**

In this paper, we review current knowledge about the retinal neuroprotective effect of sirtuins. The sirtuins are highly conserved nicotinamide adenine dinucleotide (NAD<sup>+</sup>)-dependent histone deacetylases that are involved in mammalian diseases of aging. The human genome encodes seven different sirtuins (SIRT1-7). SIRT1 is localized in the nucleus and cytoplasm of the cells making up all normal ocular structures, including the retina. Age-related macular degeneration (AMD) is a typical age-related condition due to the lifelong accumulation of molecular damage caused by reactive oxygen species (ROS). SIRT1 can decrease ROS levels and promotes cell survival under oxidative stress. Upregulation of SIRT1 has a protective effect against retinal degeneration in animal models. Resveratrol is a polyphenolic SIRT1 activator that has been shown to increase the lifespan and to protect various organs against aging, including oxidative stress-induced retinal damage. Anti-aging therapy with resveratrol could be an attractive treatment option for age-related macular degeneration.

## Review Article

# Retinal Neuroprotective Effect of Sirtuins

Tatsuya Mimura<sup>1\*</sup>, Hidetaka Noma<sup>2</sup>, Hideharu Funatsu<sup>3</sup>, Aki Kondo<sup>1</sup> and Masao Matsubara<sup>1</sup>

<sup>1</sup>Department of Ophthalmology, Tokyo Women's Medical University Medical Center, Japan

<sup>2</sup>Department of Ophthalmology, Hachioji Medical Center, Tokyo Medical University, Japan

<sup>3</sup>Department of Ophthalmology, Yachiyo Medical Center, Tokyo Women's Medical University, Japan

## Abstract

In this paper, we review current knowledge about the retinal neuroprotective effect of sirtuins. The sirtuins are highly conserved nicotinamide adenine dinucleotide (NAD<sup>+</sup>)-dependent histone deacetylases that are involved in mammalian diseases of aging. The human genome encodes seven different sirtuins (SIRT1-7). SIRT1 is localized in the nucleus and cytoplasm of the cells making up all normal ocular structures, including the retina. Age-related macular degeneration (AMD) is a typical age-related condition due to the lifelong accumulation of molecular damage caused by reactive oxygen species (ROS). SIRT1 can decrease ROS levels and promotes cell survival under oxidative stress. Upregulation of SIRT1 has a protective effect against retinal degeneration in animal models. Resveratrol is a polyphenolic SIRT1 activator that has been shown to increase the lifespan and to protect various organs against aging, including oxidative stress-induced retinal damage. Anti-aging therapy with resveratrol could be an attractive treatment option for age-related macular degeneration.

## INTRODUCTION

histone deacetylases (HDACs) are enzymes that deacetylate histones, but also act on certain non-histone substrates. Class III HDACs, which are known as sirtuins, catalyze deacetylation of the acetyl-lysine residues of histones using nicotinamide adenine dinucleotide (NAD<sup>+</sup>) as a cofactor. Silent information regulator 2 (Sir2) was the first gene of the sirtuin family to be discovered. Sir2 shows a high level of evolutionary conservation and is an important regulator of senescence, cell differentiation, stress tolerance, metabolism, and cancer in several organisms. Sirtuins have been suggested to have a role in aging [1,2], calorie restriction [1-10], and inflammation. Overexpression of Sir2 prolongs the lifespan of various organisms, whereas deletion or mutation of Sir2 leads to a shorter lifespan [11-13]. Seven human Sir2 homologues (sirtuins) have been identified to date, and these are designated as SIRT1 to SIRT7 [14-15]. Sirtuins are also important in preventing age-related ocular diseases [16]. In this review, we focus on the retinal neuroprotective effect of sirtuins.

## ENZYMATIC ACTIVITY OF SIRTUINS

Sirtuins carry out deacetylation via a two-step reaction that consumes NAD<sup>+</sup> and releases nicotinamide (NAM), O-acetyl-adenosine diphosphate (ADP)-ribose (AADPR), and the deacetylated substrate [17-21]. Sirtuin activity is regulated by the intracellular [NAD]/[NADH] ratio and responds to changes of cellular metabolism [22-25]. NAD<sup>+</sup> is an activator of sirtuins,

while nicotinamide and NADH are inhibitors. Sirtuins can catalyze deacetylation or ADP-ribosylation reactions, with both of these reactions involving cleavage of NAD<sup>+</sup> as a cofactor and the production of nicotinamide (NAM). Five sirtuins (SIRT1, SIRT2, SIRT3, SIRT5, and SIRT7) catalyze deacetylation of the lysine residues of their target proteins, using NAD<sup>+</sup> as cofactor and releasing nicotinamide along with the production of 2'-O-acetyl-ADP ribose [25-27]. In contrast, SirT4 and SirT6 catalyze ADP-ribosylation which involves transfer of an ADP-ribosyl moiety to the substrate [26,28].

Sirtuins have a highly conserved core domain that contains a catalytic domain and an NAD<sup>+</sup>-binding site [29]. Human SirT2 is composed of two globular domains, one of which is large, while the other is small. The large domain contains an inverted classical open  $\alpha/\beta$  Rossmann-fold, six  $\beta$ -strands that form a parallel  $\beta$ -sheet, and six  $\alpha$ -helices, while the small domain is composed of a helical module and a zinc-binding module. The active site is located at the interface between the large and small domains, along with a binding site for NAD<sup>+</sup>. The NAD<sup>+</sup>-binding pocket can be divided into three spatially distinct regions, which are the A site showing affinity for adenine-ribose, the B site with affinity for nicotinamide-ribose, and the C site that binds NAD<sup>+</sup>. In the presence of an acetyl-lysine substrate, the NAD<sup>+</sup>-bound B site undergoes a conformational change that brings nicotinamide into proximity with the C site so that it can be cleaved. The ADP

## \*Corresponding author

Tatsuya Mimura, Department of Ophthalmology, Tokyo Women's Medical University Medical Center East, 2-1-10 Nishiogu, Arakawa-ku, Tokyo, 116-8567 Japan. Tel: 81 33810-1111 (Ex7765); Fax: 81 33894-0282; E-mail: mimurat-ky@umin.ac.jp

Submitted: 23 February 2014

Accepted: 03 March 2014

Published: 07 March 2014

## Copyright

© 2014 Mimura et al.

OPEN ACCESS

## Keywords

- Review
- SIRT1
- Retina
- Resveratrol



ribose product then returns to the B site, allowing deacetylation to occur. The C site is the binding site for free nicotinamide. At high concentrations, nicotinamide can occupy the site and block the conformational change of NAD<sup>+</sup> [30].

### RETINAL DISTRIBUTION AND ROLE OF SIRTUINS

Jaliffa and associates investigated the localization of SIRT1 in adult mouse eyes by *in situ* hybridization. They found SIRT1 in the nucleus and cytoplasm of cells from all normal ocular structures, including the cornea, lens, iris, ciliary body, and retina. They reported that SIRT1 mRNA was detected in the outer nuclear layer (ONL), inner nuclear layer (INL), and ganglion cell layer (GCL) of the mouse retina by *in situ* hybridization (Figure 1) [31]. However, there has been no report about detection of SIRT1 in the human eye.

SIRT1-deficient mice are smaller than normal at birth and usually die during the early postnatal period [32]. Even if these mice survive, they exhibit infertility and often have a shorter snout than normal mice [32]. Additionally, all SIRT1-deficient mice fail to open one or both eyes [32]. To date, only a few studies have assessed the ocular role of SIRT1, including its relationship with the development of cataract [33,34], retinal degeneration [31,35-41], optic neuritis [42], and uveitis [43]. The most important ocular role of SIRT1 may be protecting the retina and optic nerve against degeneration.

### AMD AND OXIDATIVE STRESS

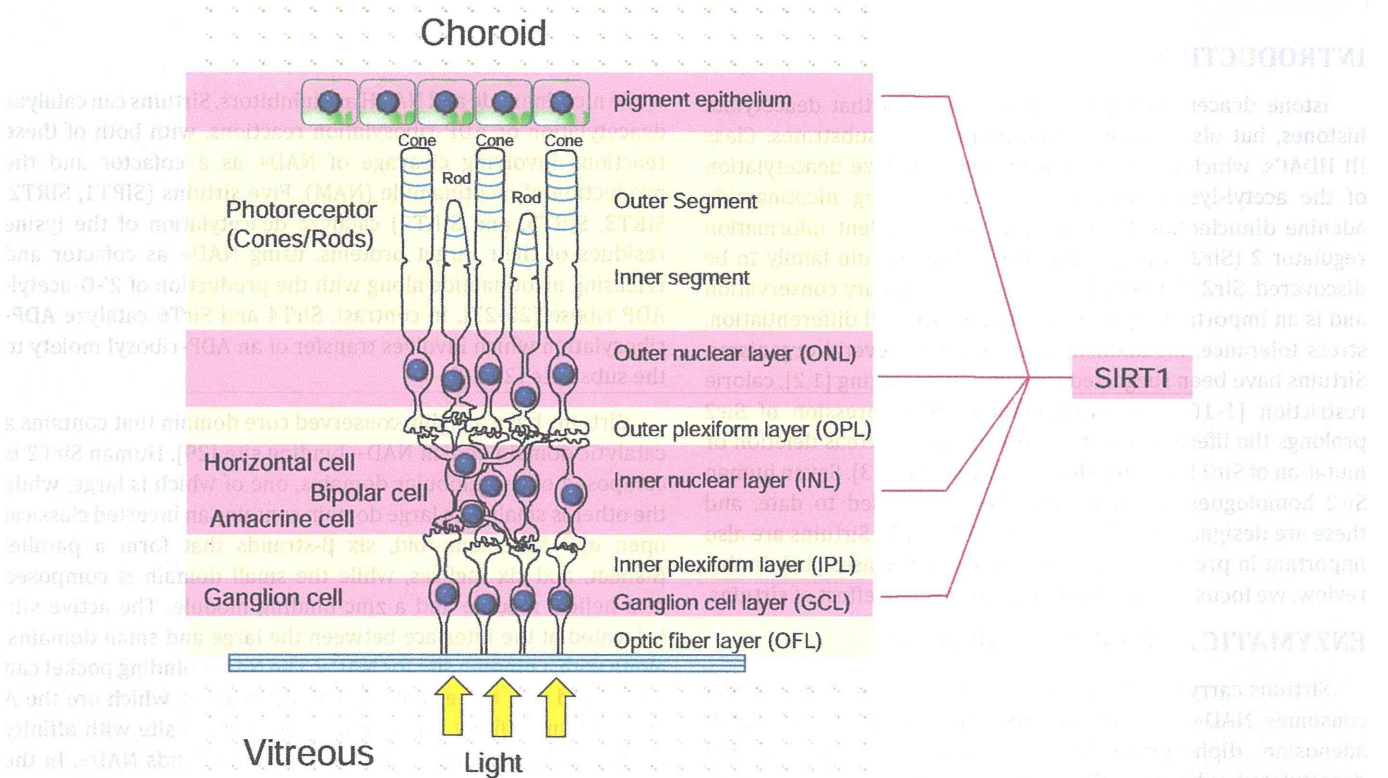
Free radicals are atoms or molecules with at least one unpaired electron in an outer shell and these radicals are known

to play an important role in the pathogenesis of cellular aging. In most biological structures, free radical damage is closely associated with oxidative damage, with antioxidants being particularly important for diminishing the cumulative effect of oxidative damage over the long lifespan of humans by passivating free radicals. AMD is a typical age-related condition, which is considered to arise from aging and the lifelong accumulation of molecular damage caused by reactive oxygen species (ROS) [44]. In the retina, ROS (including free radicals) cause damage that leads to apoptotic cell death, dysfunction of the retinal pigment epithelial cells, accumulation of lipofuscin, formation of drusen, and impairment of Bruch's membrane, and ROS-related damage is considered to be responsible for the pathological changes of AMD [45].

The Age-Related Eye Disease Study demonstrated that oxidative stress can promote the development of AMD, while antioxidants and zinc supplements delay the progression of AMD and loss of vision [46]. Oxidatively modified proteins have been detected in drusen by proteomic analysis [47]. SIRT1 decreases ROS levels and promotes cell survival under oxidative stress [48]. Thus, SIRT1 may prevent ROS-dependent apoptosis of retinal neurons under oxidative stress [49].

### NEUROPROTECTIVE EFFECT OF SIRT1 IN THE RETINA

The retina is part of the nervous system. Various factors (including aging, UV radiation, and oxidative stress) can induce permanent damage to the retinal architecture [44], while SIRT1



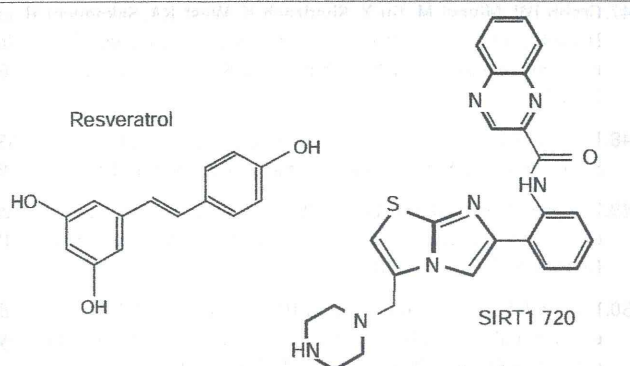
**Figure 1** Localization of SIRT1 in the mouse retina (Jaliffa 2009). SIRT1 is expressed in the retinal pigment epithelium (RPE), outer nuclear layer (ONL), inner nuclear layer (INL), and ganglion cell layer (GCL).

appears to have a neuroprotective effect on the retina. SIRT1 is localized in most layers of the normal mouse retina (including the ONL, INL, GCL, and RPE) [31]. In SIRT1-deficient adult mice, multiple retinal cell layers are significantly thinner than in normal mouse eyes, while the inner and outer nuclear layers are disorganized [35]. The inner and outer photoreceptor cell segments are also difficult to detect in SIRT1-deficient adult mice, indicating that SIRT1 has an important role in ocular morphogenesis [35].

Several experimental studies have demonstrated a protective effect of SIRT1 against retinal and optic nerve damage. For example, intravitreal injection of SIRT1 activators prevents RGC loss in a dose-dependent manner by stimulating SIRT1 enzymatic activity in mice with optic neuritis [42]. This neuroprotective effect is blocked by sirtinol, a SIRT1 inhibitor [42]. Absence of E2fs, the transcription factor for SIRT1, causes downregulation of the p53 deacetylase activity of SIRT1, resulting in p53 hyperacetylation and an increase of apoptosis in the mouse retina [37]. Transfer of the SIRT1 gene with Oct 4 prevents retinal cell loss and improves electroretinographic responses in rats with retinal phototoxicity [40]. Furthermore, upregulation of SIRT1 by resveratrol protects cultured retinal cells from antibody-induced apoptotic death [36]. Resveratrol is a natural polyphenol found in red grapes and red wine that has been shown to enhance SIRT1 activity [10,25,50] (Figure 2), and it also has a protective effect against phototoxic degeneration of the mouse retina *in vivo* [38]. These findings suggest that SIRT1 can provide protection against diseases caused by oxidative stress-induced retinal damage, such as AMD, while anti-aging therapy with resveratrol could be a potential treatment for retinal damage.

## SUMMARY

We reviewed the influence of sirtuins on retinal aging and degeneration. Some clinical trials of SIRT1 activators have already been started for a variety of diseases, including cardiovascular disease, cancer, diabetes, and Alzheimer's disease. However, many uncertainties remain, especially concerning the preventative effect of SIRT1 on AMD. SIRT1 activators such as resveratrol, rather than SIRT1 itself, may be candidate drugs for AMD.



**Figure 2** Chemical structure of two SIRT1 activators. Resveratrol is a polyphenolic compound found in grapes and wine, which is known as an activator of SIRT1. The experimental drug SIRT1720 is low molecular weight SIRT1 activator that is 1,000 times more potent than resveratrol.

## ACKNOWLEDGEMENTS

**Sources of funding:** This work was supported in part by a Grant-in-Aid for Scientific Research from the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology of Japan and by a Health Labour Sciences Research Grant from The Ministry of Health Labour and Welfare of Japan.

## Declaration of interest

The authors report no conflicts of interest. The authors alone are responsible for the content and for writing this paper.

## REFERENCES

1. Gotta M, Strahl-Bolsinger S, Renauld H, Laroche T, Kennedy BK, Grunstein M, et al. Localization of Sir2p: the nucleolus as a compartment for silent information regulators. *EMBO J.* 1997; 16: 3243-3255.
2. Guarente L, Kenyon C. Genetic pathways that regulate ageing in model organisms. *Nature.* 2000; 408: 255-262.
3. Nemoto S, Fergusson MM, Finkel T. Nutrient availability regulates SIRT1 through a forkhead-dependent pathway. *Science.* 2004; 306: 2105-2108.
4. Rodgers JT, Lerin C, Haas W, Gygi SP, Spiegelman BM, Puigserver P. Nutrient control of glucose homeostasis through a complex of PGC-1alpha and SIRT1. *Nature.* 2005; 434: 113-118.
5. Nisoli E, Tonello C, Cardile A, Cozzi V, Bracale R, Tedesco L, et al. Calorie restriction promotes mitochondrial biogenesis by inducing the expression of eNOS. *Science.* 2005; 310: 314-317.
6. Civitarese AE, Carling S, Heilbronn LK, Hulver MH, Ukropcova B, Deutsch WA, et al. Calorie restriction increases muscle mitochondrial biogenesis in healthy humans. *PLoS Med.* 2007; 4: e76.
7. Milne JC, Lambert PD, Schenk S, Carney DP, Smith JJ, Gagne DJ, et al. Small molecule activators of SIRT1 as therapeutics for the treatment of type 2 diabetes. *Nature.* 2007; 450: 712-716.
8. Bordone L, Cohen D, Robinson A, Motta MC, van Veen E, Czopik A, et al. SIRT1 transgenic mice show phenotypes resembling calorie restriction. *Aging Cell.* 2007; 6: 759-767.
9. Satoh A, Brace CS, Ben-Josef G, West T, Wozniak DF, Holtzman DM, et al. SIRT1 promotes the central adaptive response to diet restriction through activation of the dorsomedial and lateral nuclei of the hypothalamus. *J Neurosci.* 2010; 30: 10220-10232.
10. Baur JA, Chen D, Chini EN, Chua K, Cohen HY, de Cabo R, et al. Dietary restriction: standing up for sirtuins. *Science.* 2010; 329: 1012-1013.
11. Kaeberlein M, McVey M, Guarente L. The SIR2/3/4 complex and SIR2 alone promote longevity in *Saccharomyces cerevisiae* by two different mechanisms. *Genes Dev.* 1999; 13: 2570-2580.
12. Tissenbaum HA, Guarente L. Increased dosage of a sir-2 gene extends lifespan in *Caenorhabditis elegans*. *Nature.* 2001; 410: 227-230.
13. Rogina B, Helfand SL. Sir2 mediates longevity in the fly through a pathway related to calorie restriction. *Proc Natl Acad Sci U S A.* 2004; 101: 15998-16003.
14. Frye RA. Characterization of five human cDNAs with homology to the yeast SIR2 gene: Sir2-like proteins (sirtuins) metabolize NAD and may have protein ADP-ribosyltransferase activity. *Biochem Biophys Res Commun.* 1999; 260: 273-279.
15. Frye RA. Phylogenetic classification of prokaryotic and eukaryotic Sir2-like proteins. *Biochem Biophys Res Commun.* 2000; 273: 793-798.

16. Mimura T, Kaji Y, Noma H, Funatsu H, Okamoto S. The role of SIRT1 in ocular aging. *Exp Eye Res.* 2013; 116: 17-26.
17. Imai S, Armstrong CM, Kaerberlein M, Guarente L. Transcriptional silencing and longevity protein Sir2 is an NAD-dependent histone deacetylase. *Nature.* 2000; 403: 795-800.
18. Tanner KG, Landry J, Sternglanz R, Denu JM. Silent information regulator 2 family of NAD- dependent histone/protein deacetylases generates a unique product, 1-O-acetyl-ADP-ribose. *Proc Natl Acad Sci U S A.* 2000; 97: 14178-14182.
19. Landry J, Slama JT, Sternglanz R. Role of NAD(+) in the deacetylase activity of the SIR2-like proteins. *Biochem Biophys Res Commun.* 2000; 278: 685-690.
20. North BJ, Marshall BL, Borra MT, Denu JM, Verdin E. The human Sir2 ortholog, SIRT2, is an NAD<sup>+</sup>-dependent tubulin deacetylase. *Mol Cell.* 2003; 11: 437-444.
21. Denu JM. Linking chromatin function with metabolic networks: Sir2 family of NAD(+) -dependent deacetylases. *Trends Biochem Sci.* 2003; 28: 41-48.
22. Lin SJ, Defossez PA, Guarente L. Requirement of NAD and SIR2 for life-span extension by calorie restriction in *Saccharomyces cerevisiae*. *Science.* 2000; 289: 2126-2128.
23. Lin SJ, Kaerberlein M, Andalis AA, Sturtz LA, Defossez PA, Culotta VC, et al. Calorie restriction extends *Saccharomyces cerevisiae* lifespan by increasing respiration. *Nature.* 2002; 418: 344-348.
24. Lin SJ, Ford E, Haigis M, Liszt G, Guarente L. Calorie restriction extends yeast life span by lowering the level of NADH. *Genes Dev.* 2004; 18: 12-16.
25. Haigis MC, Sinclair DA. Mammalian sirtuins: biological insights and disease relevance. *Annu Rev Pathol.* 2010; 5: 253-295.
26. Milne JC, Denu JM. The Sirtuin family: therapeutic targets to treat diseases of aging. *Curr Opin Chem Biol.* 2008; 12: 11-17.
27. Donmez G, Guarente L. Aging and disease: connections to sirtuins. *Aging Cell.* 2010; 9: 285-290.
28. Yamamoto H, Schoonjans K, Auwerx J. Sirtuin functions in health and disease. *Mol Endocrinol.* 2007; 21: 1745-1755.
29. Alcain FJ, Villalba JM. Sirtuin inhibitors. *Expert Opin Ther Pat.* 2009; 19: 283-294.
30. Carafa V, Nebbioso A, Altucci L. Sirtuins and disease: the road ahead. *Front Pharmacol.* 2012; 3: 4.
31. Jaliffa C, Ameqrane I, Dansault A, Leemput J, Vieira V, Lacassagne E, et al. Sirt1 involvement in rd10 mouse retinal degeneration. *Invest Ophthalmol Vis Sci.* 2009; 50: 3562-3572.
32. McBurney MW, Yang X, Jardine K, Hixon M, Boekelheide K, Webb JR, et al. The mammalian SIR2alpha protein has a role in embryogenesis and gametogenesis. *Mol Cell Biol.* 2003; 23: 38-54.
33. Zheng T, Lu Y. Changes in SIRT1 expression and its downstream pathways in age-related cataract in humans. *Curr Eye Res.* 2011; 36: 449-455.
34. Lin TJ, Peng CH, Chiou SH, Liu JH, Lin-Chung-Woung, Tsai CY, et al. Severity of lens opacity, age, and correlation of the level of silent information regulator T1 expression in age-related cataract. *J Cataract Refract Surg.* 2011; 37: 1270-1274.
35. Cheng HL, Mostoslavsky R, Saito S, Manis JP, Gu Y, Patel P, et al. Developmental defects and p53 hyperacetylation in Sir2 homolog (SIRT1)-deficient mice. *Proc Natl Acad Sci U S A.* 2003; 100: 10794-10799.
36. Anekonda TS, Adamus G. Resveratrol prevents antibody-induced apoptotic death of retinal cells through upregulation of Sirt1 and Ku70. *BMC Res Notes.* 2008; 1: 122.
37. Chen D, Pacal M, Wenzel P, Knoepfler PS, Leone G, Bremner R. Division and apoptosis of E2f-deficient retinal progenitors. *Nature.* 2009; 462: 925-929.
38. Kubota S, Kurihara T, Ebinuma M, Kubota M, Yuki K, Sasaki M, et al. Resveratrol prevents light-induced retinal degeneration via suppressing activator protein-1 activation. *Am J Pathol.* 2010; 177: 1725-1731.
39. Ozawa Y, Kubota S, Narimatsu T, Yuki K, Koto T, Sasaki M, et al. Retinal aging and sirtuins. *Ophthalmic Res.* 2010; 44: 199-203.
40. Peng CH, Cherng JY, Chiou GY, Chen YC, Chien CH, Kao CL, et al. Delivery of Oct4 and Sirt1 with cationic polyurethanes-short branch PEI to aged retinal pigment epithelium. *Biomaterials.* 2011; 32: 9077-9088.
41. Geng Y, Wang J, Liang J, Xu C, Zhi Y. Expression of Sirt1 and Sirt2 in injured optic retina of calorie restricted rats. *Eye Sci.* 2011; 26: 221-224.
42. Shindler KS, Ventura E, Rex TS, Elliott P, Rostami A. SIRT1 activation confers neuroprotection in experimental optic neuritis. *Invest Ophthalmol Vis Sci.* 2007; 48: 3602-3609.
43. Kubota S, Kurihara T, Mochimaru H, Satofuka S, Noda K, Ozawa Y, et al. Prevention of ocular inflammation in endotoxin-induced uveitis with resveratrol by inhibiting oxidative damage and nuclear factor-kappaB activation. *Invest Ophthalmol Vis Sci.* 2009; 50: 3512-3519.
44. Fletcher AE. Free radicals, antioxidants and eye diseases: evidence from epidemiological studies on cataract and age-related macular degeneration. *Ophthalmic Res.* 2010; 44: 191-198.
45. Winkler BS, Boulton ME, Gottsch JD, Sternberg P. Oxidative damage and age-related macular degeneration. *Mol Vis.* 1999; 5: 32.
46. Age-Related Eye Disease Study Research Group. A randomized, placebo-controlled, clinical trial of high-dose supplementation with vitamins C and E, beta carotene, and zinc for age-related macular degeneration and vision loss: AREDS report no. 8. *Arch Ophthalmol.* 2001; 119: 1417-1436.
47. Crabb JW, Miyagi M, Gu X, Shadrach K, West KA, Sakaguchi H, et al. Drusen proteome analysis: an approach to the etiology of age-related macular degeneration. *Proc Natl Acad Sci U S A.* 2002; 99: 14682-14687.
48. Hori YS, Kuno A, Hosoda R, Horio Y. Regulation of FOXOs and p53 by SIRT1 modulators under oxidative stress. *PLoS One.* 2013; 8: e73875.
49. Zhang F, Wang S, Gan L, Vosler PS, Gao Y, Zigmond MJ, et al. Protective effects and mechanisms of sirtuins in the nervous system. *Prog Neurobiol.* 2011; 95: 373-395.
50. Howitz KT, Bitterman KJ, Cohen HY, Lamming DW, Lavu S, Wood JG, et al. Small molecule activators of sirtuins extend *Saccharomyces cerevisiae* lifespan. *Nature.* 2003; 425: 191-196.

Cite this article

Mimura T, Noma H, Funatsu H, Kondo A, Matsubara M (2014) Retinal Neuroprotective Effect of Sirtuins. *JSM Ophthalmol* 2(1): 1016.

